

キャラクター名  
船坂康晴

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	刑事	カヴァー	元刑事
	キュマイラ					
オプション			年齢	42	性別	男
覚醒	死	衝動	闘争	初期侵食率	34	%
出自	義理の両親	経験	死と再生	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	5	0	0			5	行動値	5
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	5
精神	1	0	0			1	戦闘移動	10
社会	1	0	0			1	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	2	
運転：車	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：警察	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	8r+5	1	9		
	白兵	8r+5	1	45		
	白兵	9r+5	1	57		80%時
コンボ《抜刀モード：昇華機構》	白兵	12r+5	1	57		100%時

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：警部	
コネ：政府へのコネ	
コネ：情報屋	
《部隊権限：鈴》	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
妻	P 遺志	N 疎外感		
マミさん	P 庇護	N 不安		
ぐだ男	P 庇護	N 不安		
スグリ	P 庇護	N 不安		
鈴	P 慈愛	N 憐憫		
千枝	P 慈愛	N 憐憫		
エックス	P 誠意	N 憐憫		

最大財産P: 6    残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
イオノクラフト	1	1	マイナー					
効果：	飛行して戦闘移動 距離LV×2+							
破壊の爪	1	3	マイナー					
効果：	素手データ変更							
アームズリンク	3	2	メジャー			白兵・射撃		
効果：	ダイスLV+							
ライトニングリンク	3	4	メジャー			白兵・射撃リミット		
効果：	ダメージLV×4 HP5を失う							
コンセントレイト：ブラックドッグ	3	2	メジャー					
効果：	C値レベル分下げ							
ターゲットロック	3	3	セットアップ					
効果：	対象を決めシーン中攻撃を行った場合AT+LV×3							
攻勢変色	3	3	セットアップ				リミット	
効果：	ターゲットロック時に攻撃+LV×5 暴走を受ける							
バリアクラッカー	1	4	メジャー		単体	白兵	80	
効果：	装甲無視 ガード無視 シナリオLV回							
アンテナモジュール	★							
効果：	体内にアンテナが仕込まれており、通信が可能							
鋭敏感覚	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

船坂康晴 42歳  
ブラックドッグ・キュマイラ

概要

元刑事の42歳のオッサン、基本冷静かつノリは割りと良いが結構辛辣  
昔は刑事だったが麻薬捜査の事件中子どもを守り負傷、その時レネゲイトに覚醒  
後悔はしてはいないが左遷され幾つかの部署を回ってたおっさん  
特撮好きであり、色々なシリーズを見ている少年心もある。  
各所を巡った結果コネが色々あったり知り合いが多かったり、結構強かな面も見られる。  
戦闘時はパワーファイター、武装名称甲徹陣七龍(こうてつじんななかまど)と言う武装を生成し纏い戦う。  
かつては奥さんが居た、が体が弱く子どもは出来ずに、添い遂げそして死んでいった。  
「もう少し何か出来たのではないか？」と言う後悔は有るが、一緒に生きた日々自体に後悔は無い。  
刑事であった自分を応援してくれた妻であった、そんな妻にも恥じない様に生きている

性格

冷静だが冷めていると言う感じではなく落ち着いている雰囲気  
割と辛辣気味かつ、毒舌な場面も見られる。笑顔で毒を吐く事もしばしば  
特撮好きでその時だけは興奮した子どもの様である。  
酒は日本酒が好き、ノミコミュニケーションは好きだが強制はしては行けないという戒めを化している